

Spring Seminar 2017 5th C Table 総評

ジャッジ：大江（上智）
江澤（青学）

■ 結果

- 1位：下田（慶應2）
- 2位：山根（東大2）
- 3位：丹羽（早稲田2）
- 4位：原（東洋3）
- 5位：安藤（法政2）
- 6位：東野（高経2）
- 7位：寺岡（学習院2）

■ 議論の流れ（大江）

下田がオピニオンプレゼンターに立候補し、脳死者に臓器移植を強制するという臓器移植のOrdinalなオピニオンで議論が進められた。

ASQでは臓器の種類、脳死の定義、医療目的などについての質問がなされ、すんなりと検証を終えた。NFC、Mandate Areaでも特に大きな混乱はなく議論が進み、Solution Areaで丹羽が「APAでは脳死者の家族が権利を持っておらず、R/J/G stanceと異なるため×Practicability」という反論を提示した。しかし、山根によりR/J/GではなくテーブルでのJ/Gとして議論するべきだという点を理由にした丹羽のideaをDAとして扱うsuggestionが通り、終息した。

その後、丹羽のTGをB/D/FとしたDAが選ばれ90分を残してComparisonが始まった。Comparisonでは三つのideaが提示され議論がなされた。一つ目のideaは下田の「S/MのTendencyに関して、AD TG (Patient)は上向き傾向だがDA TG (B/D/F)は下向き傾向であるためAD>DA」というideaであったがこれは丹羽のAD,DAどちらにおいても逆のTendencyを持ったTGが存在するという反論によってlogicが切られる。二つ目のideaも下田によるもので、「AD TGはdiseaseを持っているがDA TGは持っていないためAD>DA」といったlogicでこれは立論された。三つ目のideaは丹羽による「AD TGは権利を持っているのに対し、DA TGは権利を失うためDA>AD」という内容でこのlogicの検証途中で議論が終了した。

■ 選定理由（江澤）

- 1位：下田（慶應2）

オピニオンプレゼンターだったため

オピニオンプレゼンターに選ばれ、コンパリソンまで進んだため下田を一位とした。オピニオンプレゼンターとして90分もの時間を残してget ADをできたことは高い評価に値すると考えられる。しかしながら周りが身を乗り出さないと聞こえないほど声や字が小さかったり、テーブルメンバーではなく質問者のみに向けて答えを返す様な姿勢にまだ改善の余地があると感じた。今後に向けてプレゼン方法を見直して貰いたい。

- 2位：山根（東大2）

テーブルの中の論点をQやCによって提示していたため

テーブルの理解が統一されていないときに、質の高いQやCでテーブルの推進や理解の統一に大きく貢献したため、山根を2位とした。話の要点を見つけ出したり、他者の意図を汲みとる姿勢がとても良かった。また介入の質も高いものであったが、全体的に介入量が少なかったことが残念な点として挙げられる。他人の話を理解する能力やプレゼンはとても良かったので、今後に向けてどの様にしたら介入量を増やすことができるかという事を考えながらプレパをして

貰いたい。

3位：丹羽（早稲田2）

テーブルの中心となるオブジェクションを提示したため

丹波のオブジェクションが今回のテーブルにおいて多く話された為、丹波を3位とした。コンパリにおいては下田のロジックを切るなど、どの場面においても、自分の意見を最後まで通そうとする姿勢が見られとても良かった。しかしながらQの内容や自分のunderstandingの為だけであったり、objectionの最中にオピメのみと話し始めたり、他のテーブルメンバーへの配慮が少々足りなかった様に思われる。自分の役割を積極的に見つけ、意見を通す姿勢は素晴らしかったなので、これからは周りのことを配慮したディスカッションを目指して欲しい。

4位：原（東洋3）

オブジェクションの提示、Qによる積極的な介入を行ったため

テーブル内でオブジェクションを出し、Qも積極的に行なっていた為、4位とした。積極的に介入しようとする姿勢がとても良く、評価に値するが、出したオブジェクションをDAであるという前提の元話を進めてしまっていたり等、タスク理解が足りていない印象を受けた。なぜタスクがあるのか、どの様にしたらタスクに沿ったオブジェクションができるのかという事を考えつつ今後プレパをすれば大きく成長すると感じた。

5位：安藤（法政2）

タスクを理解している印象を受けた。しかしながら介入量が少なく、オブジェクション等の自分の意見の提示が見受けられなかった為、5位とした。これからのテーブルでは積極的に介入する姿勢を最後まで示して欲しい。

6位：東野（高経2）7位：寺岡（学習院2）

介入量とテーブルへの貢献度で6位と7位とした。2人とも一言も喋らない姿勢でなかったことは良かった点として挙げられる。これからは自分の質問がテーブルにどのような影響を与えるのか、出せるオブジェクションやコンパリのアイディアはないかという事を考えながらプレパをして貰いたい。